

大和田小・坂田小統合準備室説明会 質問・意見の概要

質問・意見	市の見解
大和田小の校長先生は、学校や地域のことを熟知していることから、来年度も統合準備室に関わってほしい。	異動や定年があり、それを変更することは難しいです。どういった関りを持てるか検討し、要望として承ります。
事前交流は、どのような計画があるのか。コロナ禍ではあるが、円滑な統合に向けて取り組む必要があるのではないか。	統合した学校の生徒や職員の感想から、事前交流は円滑な統合に一定の役割を果たしていると認識しています。現在は、6月までの臨時休校を受けて、必要な時数の確保や安定した教育活動の継続が重要だと考えています。学校間では年度当初に交流を企画していただきましたが、実施できていない現状があります。感染の状況や教育活動の運営などを考慮し、交流についても検討を行ってまいります。
神門地区から一番遠い場所でも4km未満の距離である。通学手段を担保することはできるのか。	国及び本市においても、通学の範囲を4km以内、60分以内という基準があり、統合校の通学区域は基準内であると認識しています。
神門地区から通学する場合、通学時間の延長により出発時刻が早まること、帰りが遅くなるのが心配である。他地区のようにスクールバスを視野に入れてほしい。	基準内の通学区域において、専用のスクールバスを運行することは難しいです。
市の路線バスを活用して、通学の支援ができるのではないかと。	ただし、発達段階などを考慮し、通学時間が60分に近い子どももいることから、通学手段について統合準備室の「通学部会」で意見をいただきながら検討を行ってまいります。その一つの手段として、コミュニティバスも検討の材料の一つとしております。
コミュニティバスを通学に活用するとすると、着席できない可能性もあるので、スクールバスを導入してほしい。	
学校では集団登校を実施してくれており、保護者は安心して登校させている。ただ、集団登校を実施している期間が短いことと、統合後も実施してくれるかが不安である。	現在も各学校にて、登校・下校の安全確保の面から、集団下校や一斉下校を実施しております。入学時には、一定期間教職員も付き添いながら集団下校を実施しています。通学路も2回変更となることから、「通学部会」や学校職員と安全対策について検討し、関係機関とも連携し、必要な手立てを講じてまいります。
子どもたちには、自分の足を使って学校に通ってほしいが、3kmを超え1時間近くなってしまうと歩いて登校しなさいとは言えない。公共機関を使ってでも自力で登校できるようにしたい。	徒歩による登下校には、日常生活の運動としてだけでなく、友達との関わり、自立の一步として意義のあるものだと認識しております。また、一方で交通安全や生活の安全確保など、環境の整備も必要です。通学手段については、通学にかかる時間、安全面、生活への影響面など、通学部会において様々な角度から検討を深めてまいります。
使用校舎が坂田小学校になった経緯について教えてほしい。	今回のプログラムでは、小・中・高が隣接している立地を生かし、小中一貫教育やキャリア教育といった特色ある教育を、さらに発展させることを目指しています。その上で連携するための立地、また、既存施設の有効活用という方針に基づき、施設の状況、通学の距離、適正なコストなどから総合的に判断しました。
坂田小学校は4階建てになっており、国の整備指針にも「3階建てが望ましい」とある。避難経路など防災面も問題があるのではないか。	法令に適合した施設であり、避難経路なども消防に確認をしていますが、安全面の課題はないことは確認しております。また、これまで50年近く、坂田小学校では様々な教育活動を展開してきており、その中で大きな事故などは発生しておりません。ただし、施設を整備するにあたり、指針の趣旨も踏まえ、よりよい環境となるように努めてまいります。

<p>現在のコロナの情勢から、密を避けた少人数学級の整備を国も進めようとしている。坂田小学校では教室数が少ないため、密を避けることができないのではないか。</p>	<p>大和田小学校も坂田小学校も今後使用していくにあたっては、改修工事を実施し、安全面や快適性の向上を図りたいと考えております。 改修にあたっては、統合校の児童数に合わせた教室などを整備することになるため、どちらの学校を使用校舎としても規模は変わらないことになります。 国から少人数指導の方針が出され、方向性が示されれば、それに応じた対応を図ってまいります。</p>
<p>坂田小学校は、現在でも歩車分離ができておらず危険な状況であり、大和田小学校ならば安全である。統合すればさらに状況は悪くなるのではないか。</p>	<p>保護者の送迎については、通学部会においても保護者や地域の方から意見をいただいております。大和田小学校も坂田小学校も現状課題があると考えております。</p>
<p>坂田小学校では送迎の保護者対応として、旧坂田共同調理場を使用している。歩者分離ができない状況で危険である。</p>	<p>統合時の使用校舎は大和田小、その後坂田小へ移りますが、両方の使用校舎における登下校の児童の動線、保護者の送迎車の動線を想定し、安全確保について手立てを考えてまいります。</p>
<p>坂田小学校に通うことになると、7割以上の子どもたちが遠くなり、通学の時間が長くなる。</p>	<p>どちらの校舎を使用しても、通学距離に影響は出てしまいますが、4km以内、60分以内という基準に基づいており、適正な範囲であると考えております。 通学経路によっても時間が変わってきますが、安全確保の面からも考える必要があり、通学部会で意見をいただきながら検討を進めてまいります。</p>
<p>大和田小学校、坂田小学校ともに耐震のIs値は変わらない。なぜ耐用年数などに差が出てくるのか。数値を改ざんしているのではないか。</p>	<p>Is値とは、鉄筋コンクリート造建造物の耐震指標として扱われます。0.6以上あれば、震度6以上の地震の際に、倒壊または崩壊する可能性が低いとされております。 市内すべての学校で耐震工事は完了しており、Is値は0.7以上となるように必要な補強工事を実施しているところです。 地震の揺れに対する建物の強度は十分確保されております。 一方で、耐用年数というのは、建物を構築しているコンクリートの圧縮強度をもとに算出しております。建設された年度や環境が違っており、耐用年数に差が出ているものと考えております。 両校とも統合まで安全に使用できる校舎であると考えております。</p>
<p>大和田小学校を使用校舎とすれば、教室を増やしたり、改修工事をしたりする必要なく、費用も少なく済むはずである。</p>	<p>両校とも安全性や利便性を向上させるため、必要な改修工事を行う時期を迎えていると考えております。 統合校としての教室数や必要な設備、施設の状況を踏まえて両校のコストを試算して検討を行いました。 教育面のみならず、校舎の状態や適正なコストなども含め総合的に使用校舎を判断しております。</p>
<p>現在人見地域は、空き地がなくなり若い世代が越してきている。それらも見据えて児童数を想定しているのか。</p>	<p>想定の子供数については、未就学児の推移や過去の入学率をもとにした推計と、最大値の両面から想定を行っております。 新たな宅地の開発や転居などの動向を注視しながら進めてまいります。</p>
<p>坂田小学校を改修した後、どれくらい使うことができるのか。改修ではなく、建て替えた方が得になることはないのか。</p>	<p>改修工事を行うことで、最大で約30年程度使用可能だと考えております。 これまで耐震補強工事や大規模改修工事など一定の資本を投下しており、改築についてはその期間の教育活動への影響や手立てなど勘案し、既存施設の有効活用を基本計画でも謳っております。</p>
<p>このような説明会を今後も継続してほしい。</p>	<p>これまでの説明会での意見や要望については、市ホームページに掲載しております。また、今後統合準備室の協議した内容や進捗状況については、「統合準備室だより」にて自治会回覧やホームページを通じて、広く情報を発信してまいります。</p>
<p>説明会に参加できない方々にもわかるように、事務局の説明、会場で出た質問や意見をホームページなどで閲覧をできるようにしてほしい。</p>	<p>コロナ禍でもあり、説明会を開催する予定はございませんが、ご要望があれば説明等に伺います。</p>